

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891000032		
法人名	株式会社 フィールド		
事業所名	こころあい芦屋		
所在地	兵庫県芦屋市岩園町29-14		
自己評価作成日	平成24年7月29日	評価結果市町村受理日	平成24年9月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	新規事業所のため情報公表制度調査未対象事業所
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区萩乃町2-2-14		
訪問調査日	平成24年8月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームそのものが、芦屋での住居に似たものを感じていただけるように木のつくりになっています。小さなホームですが暖かな思いでいっぱいです。地域のかたのご協力をたくさんいただいて運営できているものと感じております。医療連携もしっかりできていて スタッフ自身も安心して業務に専念することができます。外出も充実しつつ、もっと思い出の場所に出かけたいと思っています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①**家族との信頼関係**…職員の対応に家族からの感謝の言葉が非常に多い。管理者の日頃からのきめ細かい動き(入居者対応・家族との相談・家族への報告等)が家族の安心感に繋がっている(家族アンケート回答)。今後、更に家族との絆を確かなものにするため、家族会の発足も検討中である。「利用者本位の支援」を目標におき、課題に対して前向きに取り組んでいるホームである。②**居住環境**…芦屋市の閑静な環境の中にあり、静かで落ち着いた雰囲気である。木質系を多用した洋風の建築仕様であり、中庭もライトコートとしての良い役割を醸し出している。③**楽しみ事への支援**…外出(買物・遠足等)や行事の企画に力を入れており、家族の参加の割合も多い。また、地域のボランティアの導入も積極的で、多彩な内容が提供されている(歌・大正琴・百人一首・英会話・ヨガ等)。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己 者 三	項 目	自己評価 実践状況	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホームの理念は「心豊かに その人らしい安心ある暮らしを大切に。愛と笑顔で共に歩む。」です。理念の大切さを、採用の新人研修に取り入れて、理解していただいております。全体会議などで機会があるごとに共有しております。	ホームの独自理念は、開設当初に作成しており、新人の研修時にも確認している。現在は、「その人らしく！」を大切にし、「自分の親を入れたいホーム」を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームにある地域交流室を地域の方に使用していただいたり、避難訓練時には地域の方のご協力をいただいております。夜間避難時も 福祉委員の方々と緊急連絡網も作っていただいております。	1階の地域交流室を自治会や民生委員、保護司の方々にも活用してもらっている。芦屋市のグループホーム連絡会(3カ月に1度)に出席している。	益々と、地域の方が気軽に立ち寄って頂けるような企画の実施を助産されるとともに、地域の社会資源としての取り組みの継続に期待をします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	岩園地区福祉委員会の研修会で、「認知症の方の理解と支援について」の研修会をさせていただき、直接困っておられるかたのお話を聞かせていただきことができたり、何か地域の方のお力になれるようにと活動しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は 2ヶ月に1回必ず開催しております。ホームでの事故、毎日の生活状況など、事細かく報告し、たくさんのアドバイスを、いただいております。楽しい話や、困った話など、細かくご意見をいただいております。サービス向上に役立てております。	運営推進会議では、事故や入退所の利用者の状況などを報告している。現在のところ、家族や利用者は出席していない。家族会もないので、報告事項が中心となっている。	今後、利用者や家族等にも出席して頂ける様、検討してみても如何でしょう。会議内容を、書面で家族等に伝えることで、家族参加に繋がることも考えられます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所からの研修のお知らせをいただいた際は必ずスタッフに回覧で見てもらっています。時間やシフトに合わせて参加できるものは参加していただいております。今年度実地指導も入り、記録の書き方や、その他、全般に指導をいただき、改善部分は早く改善し、よかった部分はできるだけ続けていけるようにしたいと思っております。	本部役員をはじめ、管理者や計画作成担当者を中心となって、市との情報の共有化を図っている。消防署とも連携し、研修や訓練などに取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないホームを目指しております。門、玄関を含めて施錠しないよう心掛けていますが、どうしても施錠しないといけない時間もあるためその対策を考えている状況です。	マニュアルを用いて、定期的に研修を行っている。安全面等の優先により、止むを得ない場合においては家族と相談し同意をもらうようにしている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフのストレス防止とスタッフの更なる理解が必要だと感じています。虐待を理解するために、勉強会で徹底しています。スタッフへの聞き取りや日常でのスタッフの様子を気にかけています。フロアでの態度、話にも気を付けています。	虐待防止に関して、定期的に研修を行っている。職員のストレス防止については、職員が、日頃から管理者や主任に何でも相談できる信頼関係づくりを大切にするように努めている。。	

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や 成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、それらを活用で きるよう支援している	ご入居者様の中で何人かのかたが後見人の制度を利用さ れています。そのため勉強もさせていただいておりました が、新たに新スタッフも入ってきていますので、勉強会を 強化していきます。	利用者の中で、成年後見制度を活用している方 がいる。身寄りのない方の申請も予定している。 事業所として、勉強会や研修も行う様にしてい る。	包括支援センターの職員等に依頼をし て、家族勉強会や職員研修を実施する ことも検討されては如何でしょう。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用 者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説 明を行い理解・納得を図っている	契約書を理解していただくために、お時間をとって説明さ せていただいております。契約後も、何かご質問がおあり の時も、電話や時間を合せていただいております。	契約にあたり、管理者や主任、計画作成担当者 が手続きの流れや事業所内での生活等の説明 をしている。事業所独自のパンフレットを作成 し、サービス内容や料金等がわかり易い資料と なっている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員 ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを 運営に反映させている	ご家族様がホームにお見えになられたときに介護記録、訪 問看護記録の確認をしていただいております。その時にご 要望の意見を記入していただいております。またそれをス タッフや民生員福祉員の方に公表してご意見をいただい て運営に反映させていただいております。	日常での電話でのやり取りのほか、家族が事業 所を訪問した際や家族同行の外出時にも家族 や利用者の意見を聴いている。家族会の発足 についても、今後の検討課題としている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見 や提案を聞く機会を設け、反映させている	主任、管理者が聞き取った意見を要望書や提案で運営会 議、管理者会議に反映させています。	事業所にて毎月開催されている運営会議に法 人の代表者が出席している。管理者と従業員の 会議も頻繁に行われている。法人の役員も、頻 繁に訪問しており、管理者との意見交換をして いる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、 勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やり がいなど、各自が向上心を持って働けるよう職 場環境・条件の整備に努めている	毎日忙しい中、個々の努力は汲み取っています。労働時 間、実績なども細かく把握しています。改善してほしいこ とは運営会議、管理者会議にもっていき意見を交換してい ますし改善もさせていただいております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの 実際と力量を把握し、法人内外の研修を受け る機会の確保や、働きながらトレーニングして いくことを進めている	新人には新人研修、中間のスタッフには中間研修を行って います。時間を見て、スタッフに合ったトレーニングも管理 者自ら教えています。受講したい研修の申し込みや1人1 人に合った研修の紹介もしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する 機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互 訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上 させていく取り組みをしている	芦屋市内でのGH連絡会での勉強会、事例検討会、交換 研修と同業者の方との交流も盛んにおこなわれています。 色々な勉強会での取り入れはサービスの向上に非常に役 だてています。ころあいの事業者内でも研修を行ってい ます。		

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴の姿勢を保ち、初期行動表を確認しながら、毎日の表情や言動もしっかり見て、何かあればすぐに横に飛んで行けるぐらいの、ご本人様の観察をしております。そのためすぐに動いておりますし、すぐに打ち解けていただいておりますが、自己満足にならないように気を付けています。スタッフの聞き取りもしております。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居時で困っておられること、ご入居前にかかわってこられている事業の方の情報、などしっかり把握し、ホームでのご本人様の様子を、できるだけご家族様にご報告させていただいたり、訪問していただいたときに、要望を聞かせていただいたりしています。連絡は密にとらせていただいております。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、ご本人様の状況の理解と要望、ご家族様のご要望をしっかり聞き取り、今提供できるサービスの説明と、ドクターからのアドバイスもいただき、支援内容を考えて、様子を見ながら進めさせていただいております。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	たとえば 戦争の体験など、あまり聞かせていただくことのない本当にあった話としてその時代の生活をぶりを聞かせていただき、その時代を乗り切ってきたからこそ現在があるんだと理解し、その方々に尊敬の意を表し、ねぎらいなども含めて現在の関係を築いています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様、ご親戚、友人などの訪問は毎日のようにあり一緒に生活されているような感覚になられている方もおられます。お茶やお菓子と一緒に召し上がったり、リハビリにご家族様のお力をお借りしたり、ホームの職員とご家族様と一緒に支える形をとらせていただいております。	
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居以前 参加していた同窓会や芦屋での会にご入居後も変わらず参加できるように支援しています。反対に以前からとても仲が良く、ホームに写真や趣味のものを持ってきてくださり、以前と同じような友人の関係を保っていただいております。	入居以前からのお付き合いを大事にし、同窓会や食事会等にも参加してもらっている。知人が訪ねて来たときは家族にも連絡・報告をしている。遠隔地の場合、電話や手紙等でのフォローをしている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居されて日が浅い方が、なかなか落ち着かず、それを見ていた他のご入居者様から、ゆっくり食事を一緒にとりましようと言いつくさるなどの声掛けがみられた。落ち着かない時もフロアーにお連れできれば、他のご入居者様からのお声もかかり、孤立させない、ご入居者様同士の優しさがみえる。	

自己 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、ご家族様のお困りごとや気持ちの整理がつかない方、などお電話がかかってきたときなどはもちろんですが、時候を考えて連絡させていただいております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の話や要望が聞けるように時間をとっています。食事時間や、入浴時間にも、ゆっくりと話していただけるように、話を聞かせていただいています。困難な場合は、ご家族様から以前のご本人様のご意見などはどのようなご要望をおもちでしたかなど聞かせていただいています。	計画作成者は、日常の表情や会話記録から、利用者の思いや意向を把握している。定期的にカンファレンスを開いている。事業所での全体会議や介護記録からアセスメントしている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前の情報は、ご利用になっていたケアマネさんや各事業所で詳しく教えていただいております。ご家族様はもちろんのこと、ご本人様にお聞きできる方には、時間を設けてお聞きしております。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご病気や、精神的な問題も含めて把握しております。自宅やディサービスでの状況と変わられることもよくありますのでお聞きしただけではなくて 実際の姿を把握しています。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様、ご本人様に確認させていただきながら計画を作っています。スタッフやご本人様のご要望も入れながら、進めております。	利用者や家族の意向及び介護・看護記録からの日常の利用者の状況を把握し共有している。ケアカンファレンスにおいて、各職員に意見を出してもらい評価をし、個別の介護計画に反映するようにしている。	家族向けアセスメントシート等を利用して、より本人と家族の希望に沿った介護計画を期待しています。また、家族の支援や日常生活リハビリも介護計画に位置づけるられたら如何でしょうか。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・ケアプランはスタッフの気づきを聞き取りして、提供させていただくケアに反映させていただいております。介護業務の中のケアプランの実践は計画作成者がスタッフとご家族様と一緒に取り組んでおります。まだまだご要望に添えていないこともあると思いますが、頑張っていきたいと思っています。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフが、毎日のケアの中でご入居者様のニーズを見つけ出し、計画作成者に伝言していく流れを、スタッフとの関係の中でもつくりあげていく。小さなことでも聞き取りをして、ケアに反映すること。		

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	芦屋市のイカリスーパーでのお買い物や大丸百貨店でのお買い物など、以前もよくご利用されていたところでの買い物での支援など 芦屋市で生活されてこられたことを楽しかったと話してくださる楽しみを 現在も支援させていただいている。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターとは24時間医療連携を取っており、ドクター、看護師、ご入居者様、ご家族様と共にスタッフとの情報の共有を常に取りっております。毎朝、バイタルチェックをドクターにパソコンで伝言して、適切な指示をいただいております。	元のかかりつけ医の場合でも利用者に関する医療面での情報交換ができています。看護師と24時間電話での連携ができることが、職員や家族の安心に繋がっている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師は週2日ホームに訪問してくれるため、ほとんど日常の関わりに携わってくれています。訪問看護を通じてドクターに密な連携が取れています。個々の日常の適切なアドバイス等、ご利用者様に、適切なケアが提供できております。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者様が、ご入院された後も、病院の生活相談員様との、密な連携をとり、情報交換に努めている。入院中のスケジュールの把握もご家族様・病院からもお知らせいただき退院に向けてホームでも動いております。	入院に関してはホームDrからの連絡や指示があり、必要であれば情報提供書を作成している。入院時には利用者が不安にならない様、各スタッフが訪問をしている。退院後の生活についても不備のなきように、退院カンファレンスにも出席している。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び終末期にむけた方針の共有については、その時を見て、ドクターの判断でご本人様・ご家族様・ご親戚の方・ホームドクター・看護師・ホーム管理者・計画作成者・フロアー主任・スタッフでドクター・ホームで出来る事の説明を話し合い方針に納得して皆さんで共に共有して支援に取り組む。	重度化や終末期に対する指針やマニュアルが作成されている。緊急時にも職員が不安なく対応ができる体制作りを目指し、研修等で学んでいくように努めている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ドクターと24時間医療連携を取っているため急変時にはドクターの指示で、スタッフ間で行えるまでの指示を出して頂いています。その他AEDをはじめ、緊急時の対応も研修を重ねてスタッフ1人1人実践力を付けています。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	福祉委員の方、民生委員の方なども夜間の避難体制に連絡網を作ってください、昼間、夜間体制等 練習しております。	年に2回の定期訓練のほか、AEDも設置し、災害時や緊急時に対応が出来るように努めている。災害時等の利用者確認表の作成にも取り組んでいる。今後、夜間想定避難訓練も検討予定である。	今後も、更に、いろいろな時間帯や状況を想定し、具体的な事例での研修・訓練を重ねることに期待をします。

自己 者第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居までにはご家族様やたくさんの周りの方に守られてこられた経過があります。誇りや人格を損なわないように、おかけする言葉一つ一つに気を配りお声掛けをさせていただいております。	個人情報の取り扱いや広報への記載等については、家族等に説明の上、同意書を頂くようにしている。声掛け等についても、利用者の生活背景を理解した上で注意している。	利用者のプライバシー保護に関して、身近な具体事例(守秘義務・声掛け・記録の取り方等)を取り寄せ、職員研修を実施してみることに期待をします。
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の中に服装の選択や遠足や外食の希望を聞いております。なかなか全員の方の聞き取りも難しいですが、できるだけお聞きさせていただけるように対応させていただいております。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外食がお好きな方には外食を、散歩に行きたい方は散歩にとそれ以外に、必要な希望、項目に合わせて、計画を立てて動いております。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お洋服等、肌につけられるものに関しても、オーダーメイドなど持っておられることが多くて、生地取り扱い等も一緒に考えて、その日着られたいおしゃれ感も勉強させていただいております。シャンプーなども希望のものを使用させています。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	男性のご入居者様もおうちにおられたところは台所にも入られて奥様、ご家族様の食事を作られており、ホームの台所に入ってこられることが多い。現在は料理そのものは作れないが、作っている横で見ていることが多い。女性のご入居者様は洗い物、味見などをしてくれる。	メニューについては、カロリー計画に基づいた業者からの食材を購入している。オリジナルのメニューや行事食の場合は、近くのスーパーに食材の買物に出かけている。おやつにクッキーを作ったり、出前を取ったりもして楽しんでもらっている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取もまちまちですが中間水分量を計算して不足分は午後から何かと工夫して補っています。栄養面もドクターの血液検査などで、不足しているもの、控えないといけないものを聞いて、各ご入居者様各個人対応しております。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の方にご指導をいただいておりますが、歯ブラシだけでなく、スポンジブラシなども必要な方にはご家族様にご了解をいただき口腔ケアをさせていただいております。		

自己 者第	三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハパン対応でご入居されても布パンツでの対応が可能と感じた場合、ご家族様、スタッフで話し合い布パンツに代えさせていただいております。できるだけ、トイレでの排泄をどの方も望んでおられるため、時間がかかることもありますが個別対応に取り組んでいます。	男性利用者が多いこともあり、共用部のトイレには小便器も設置している。現在、自立や見守りの方が少ないので、個別の排泄リズムを把握して対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護師の支持もあり、昼間のフロアーで座っている時間を利用し おなかにホットパックをすることやヨーグルトの摂取など薬以外での対応を前面に心がけています。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夏場は、毎日の入浴をしていただきたいところですが、遊びに出掛けたりもしたい所から、週3回です。朝風呂、長風呂、シャワー浴、等希望をお聞きして、希望に沿った支援をしています。汚染の時は随時入浴しております。	訪問看護との関係もあり、入浴は月、火、金の午前と午後を基本とした入浴の機会を確保している。その他、ジャワー浴等の適宜対応をしている。季節湯などの取り組みも行い、楽しんで頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の野外での足浴などにも出かけていますが、暑い夏は控えています。他のご入居者様が寝てしまわれ眠れない夜間はスタッフが、話し相手にホットミルクを飲んだりしながらホットした時間を過ごせるように配慮しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	出来るだけお薬は少なく、必要な分だけの処方方をドクターと共に願っております。新処方時は観察はしっかりとしておりますし、薬局の薬剤師さんにも注意点を聞きながら管理しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の嗜好品はご入居当初に聞いておりますが、ご入居されてからキムチやプリン等、食べたいもの変わる場合もありその都度購入させていただいております。ご家族様ご了解のもとですが楽しんでいただいております。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お車がお好きな方、歩くことが好きな方など様々でおられる為その方に合った外出を支援しております。2ヶ月に1度は遠足の計画を立てております。遠足に慣れてきたらご家族様の同行をお願いしたいと考えております。一緒に楽しんでいただく時間を提供したいです。	動物園、水族館、植物園などへの遠足を企画し、家族も一緒に楽しんでもらっている。芦屋浜にある足湯まで車で出かけることもある。	

自己 者第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在暑い気候は外出も考えて出ておりますが、リハビリでホームを出た時など近くのコンビニによって少し甘いものを買ったり支援させていただいております		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お電話 お葉書などよく送ってくださるご友人も多く、お葉書などは季節を感じさせていて抱くものが多いです。必ずお返事を出される方もおられるので、〒ポストに投函させていただいております。楽しみに待っております。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木のつくりが中心ですので、冷たさを感じさせない温かみがあると思います。季節のお花を玄関に入れていただいておりますので、においや昔のお花の思い出を思い出してお話して下さることも多いです。	壁には季節をテーマとしたちぎり絵や花が飾られている。中庭があることでリビングも明るい空間となっている。職員がキッチンで作業する際も、利用者の見守りがしやすい設計となっている。木質系を多用した西洋風な落ち着いた空間作りがされている。	今後、利用者が好きな時に外気浴が楽しめる様、中庭の有効活用を検討されては如何でしょう。(ウッドデッキ・テーブルセッティング、プランター花壇等)
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居者の座る位置が決まっているため、どうしてもその場所に座られることが多い。違う場所にお連れしてもなぜか、元に位置に」帰られます。廊下、トイレ前など木の椅子も設置してありますが比較的ご入居者様同士仲が良いこともあり、逃げ場所は必要としていないです。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居前に、ご自宅のお部屋に飾っておられた墨絵を持参されたり、たくさんの愛読書を持参されて、今までのご自分のお部屋と同じようにセッティングされておられます。冷蔵庫なども持込みされておられます。	各部屋は、木質系を多用した内装で、クローゼットと室内空調機、レースカーテンが設置されている。窓からは周辺の緑が見え、静かで落ち着いた雰囲気である。	今後も、利用者の状態の変化に合わせて、家族と相談しながら居心地の良い居室作りの継続を願います。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示、お風呂場など見ていただいてわかるようになっています。廊下が回路になっており、廊下の向こうからお顔が見えて 歩行練習」している様子もすぐにわかります。		